

白夜

シェーンベルクの『浄められた夜』に寄す

薄明の中に私の影も微かに見え
フィヨルドの最奥に立つ私に
U字谷は外海への道を指し示す

私の中には小さな心臓が動いている
氷の女王に吞まれた貴方の子
たった一度きりの抱擁によって
この運命の子は宿されました

夕べとも朝^{あした}ともつかぬこの薄明は
全てを浄めてゆき、私もまた
身にまとった愛欲の衣を脱ぎ去り
水際に腰を下ろして身を浄める

そして希望も絶望もないこの心は
幸福という荒涼とした哀しみの原野へと向かい
知り過ぎた内陸の野山へと向かい
未知な誘惑に満ちた外海に背を向ける

ただ母としての私だけが
生活という単調な流れに乗る
この身に宿した貴方の　　いいえ、私の子
この子だけのために

(1982.5.16)